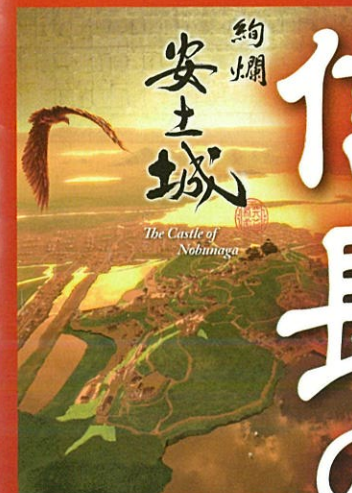


天正十年 安土城天主燃失より 四四〇年余…
蘇った幻の名城

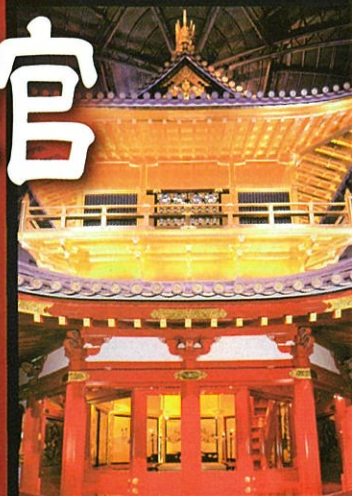


安土城天主

信長の館



バーチャルリアリティ映像上映



The revival of the Azuchi Castle.
Azuchi Castle Museum.
The "House of Nobunaga"

戦国のロマンを秘めた安土

近江八幡市安土町桑実寺八〇〇

入館料	個人	団体 (20人以上)
大人	610円	500円
高大生	350円	250円
小中生	170円	120円

※障がい者手帳を持参の方は無料です。

■開館時間
午前9時から午後5時(入館は午後4時30分)

■休館日
月曜日(祝日を除く)・祝日の翌日(土・日を除く)・年末年始(12/28~1/4)

☎0748-46-6512/FAX 0748-46-6513

■VR安土城上映開始時間
(15分間)
① 9:40 ② 10:30
③ 11:20 ④ 12:10
⑤ 13:00 ⑥ 13:40
⑦ 14:20 ⑧ 15:00
⑨ 15:40 ⑩ 16:20
(最終上映)



原寸大にて復元された名城
文芸の郷 安土城天主 信長の館

JR安土駅前広場：信長の館より車で五分

中世の安土に関する資料を中心に集めた資料館。中でも特に目を引くのは、20分の1のスケールで再現された幻の名城“安土城”。
このほか天正少年使節が信長より託された屏風絵をローマ法王に献上するまでの行程を描いた“屏風絵風陶板壁画”や信長の時代を中心に資料を集めた安土文庫などがあります。
館内ではローマの宣教師が信長に献上したとされるコーヒー“エスプレッソ”も味わえ、安土桃山時代へと誘い出してくれます。

☎0748-46-5616

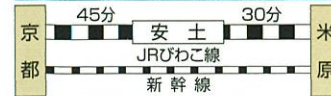
入館料	個人	団体 (20人以上)
大人	200円	150円
高大生	150円	100円
小中生	100円	50円



安土桃山時代の香り
安土城郭資料館



鉄道をご利用の方



■JR安土駅前レンタサイクル有
■JRびわご線安土駅下車徒歩25分

車をご利用の方



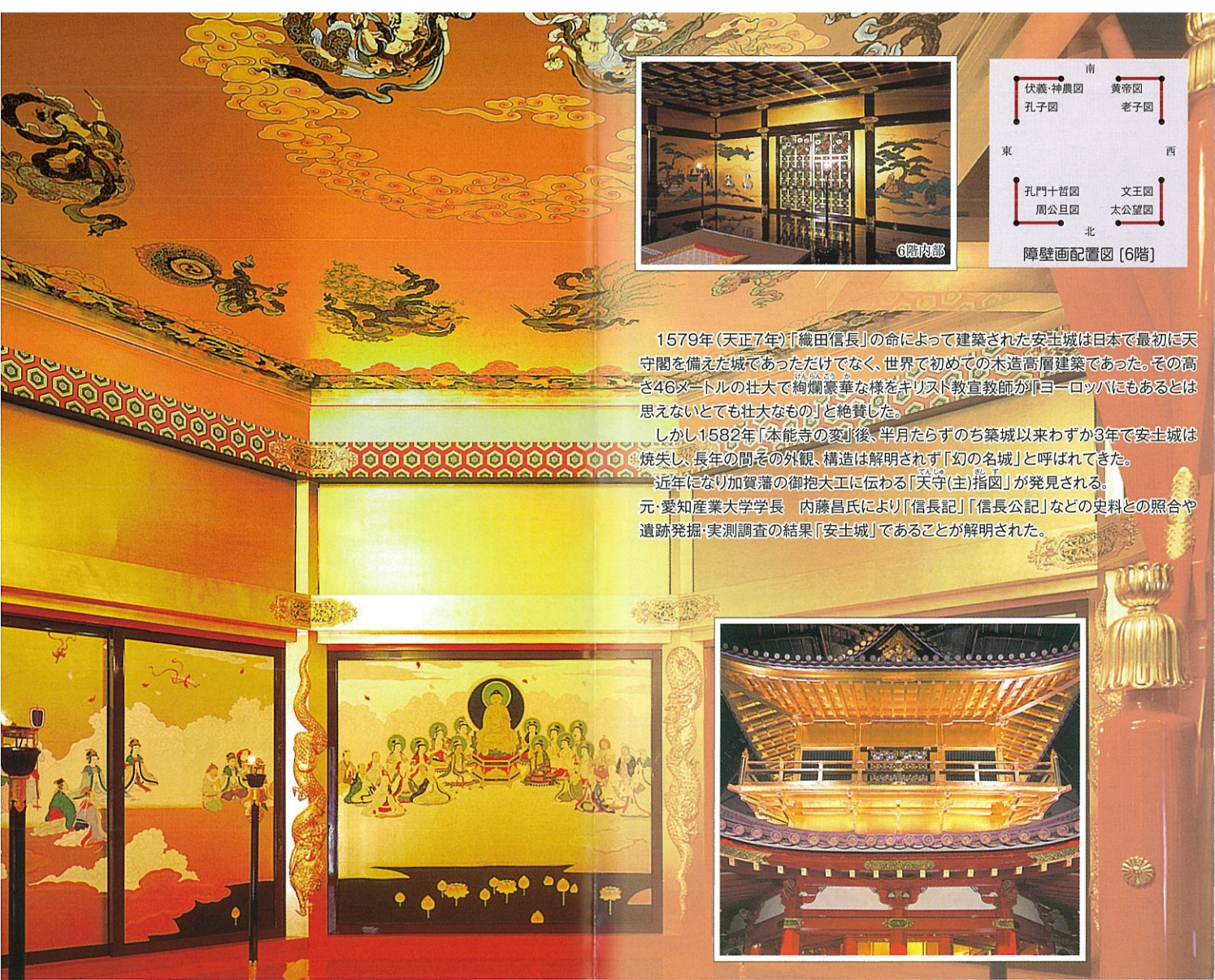
■名神高速道路電王I.Cより20分
■八日市I.Cより20分
■彦根I.Cより40分

近江八幡市指定管理者：(公財)安土町文芸の郷振興事業団

信長の姿勢と思想と表現した空間



■釈迦説法図



1579年(天正7年)「織田信長」の命によって建築された安土城は日本で最初に天守閣を備えた城であっただけでなく、世界で初めての木造高層建築であった。その高さ46メートルの壮大で絢爛豪華な様子をキリスト教宣教師が「ヨーロッパにもあるとは思えないとても壮大なもの」と絶賛した。

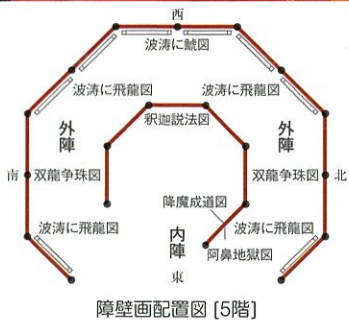
しかし1582年「本能寺の変」後、半月たらずのち築城以来わずか3年で安土城は焼失し、長年の間老の外觀、構造は解明されず「幻の名城」と呼ばれてきた。

近年になり加賀藩の御抱大工に伝わる「天守(主)指図」が発見される。元・愛知産業大学学長 内藤昌氏により「信長記」「信長公記」などの史料との照合や遺跡発掘・実測調査の結果「安土城」であることが解明された。



天界をイメージした5階黄金の間

天主5階は仏教の世界観による理想郷を象徴しています。宇宙空間を表す八角形、約30坪(99m²)の空間。金箔の壁と釈迦説法図の襖絵に囲まれた総朱漆塗りの床の中央に2枚の量が置かれています。

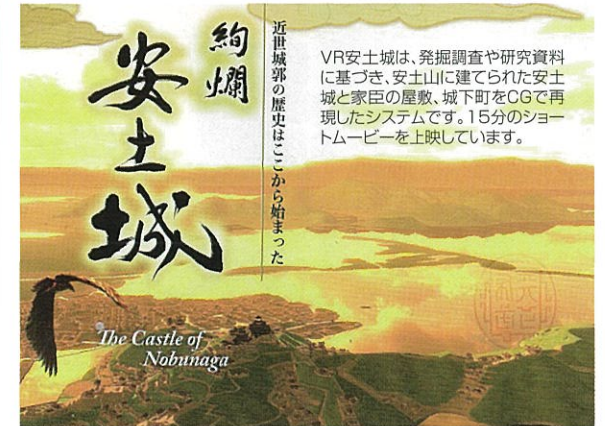


400年余りも経た1992年「スペイン・セビリア万国博覧会」の日本館のメイン展示として安土城天主の最上部5階6階部分が、東京大学・東京芸術大学・京都市立芸術大学の指導あって内部の障壁画と共に原寸大にて忠実に復元された。

博覧会期間中には最も多い入場者を記録し、人々の日本文化への関心の深さが示された。

万博終了後その「天主」を旧安土町が譲り受け解体移築し、新たに5階部分に、発掘された当時の瓦をもとに焼き上げから再現した「庇屋根」、天人の飛ぶ様を描いた天井「天人影向図」、6階部分に金箔10万枚を使用した「外壁」、「金箔の 龕」のをせた大屋根」が取り付けられた。内部には、当時信長が「狩野永徳」を中心に描かせた「金碧障壁画」も再現している。

VR安土城シアター



「絢爛安土城」あらすじ

天正9年の夏、安土城へ呼ばれたポルトガル人宣教師ルイス・フロイスが、総棟梁を務めた岡部又右衛門に城内を案内され、信長の待つ天主へと向かう。豪華絢爛に作られた安土城天主に目を見張るフロイスは、最上階から金色に染まる城下町を眺め、信長の力の強さに畏怖の念を覚えるのであった。

VR(バーチャルリアリティ)とは

コンピューターグラフィックスや音響効果を組み合わせ、人工的に現実感を作り出す技術。対象者の操作により、ある程度自由に仮想空間内を移動することが可能です。

天正十年 安土御献立 復元レプリカ

「安土御献立」は1582年(天正10年)5月、織田信長が武田勝頼討伐に功をなした徳川家康や穴山梅雪を安土城にもてなした時の饗応メニューである。「続群書類従」に基づき、尾州茶屋家16代の妻で東京福祉大学・大学院理事長 中島範氏を中心に復元し、茶屋四郎次郎記念学園の教材として活用された後、2009年4月25日に旧安土町が譲り受けた。



十五日おちつき膳

家康は、1582年5月15日から6日間、安土に滞在し、この時の饗応(接待役)を命ぜられたのが、明智光秀である。光秀は家康の接待に最大の心配りをしたが、信長は「將軍の御成のようで支度が行き過ぎている」と怒りを露わにした。接待が終わった5月18日に森蘭丸ら小姓衆に殴打され、翌19日には饗応役を解任され、22日に備中(岡山県)で毛利と戦っている秀吉の支援を命じられた。一般には、この時の仕打ちが原因で6月2日の「本能寺の変」は引き起こされたと考えられている。

茶屋家初代茶屋四郎次郎清延は本能寺の変の際、物心ともに支援を行い、家康を無事に三河の岡崎まで帰着させる役割を果たした。この時の功績により、徳川家康の御用商人として取り立てられた。